

# 令和7年 **1**月の大阪**森林**便り



## **1月の木の話 木のあたたかさ・なめらかさ・かたさ**

- \*色の暗い木には重いものがあります。
- \*重さは木の密度を反映しています。
- \*密度が大きくて重い木材ほど、細胞壁がぎっしり詰まっています。
- \*表面は緻密で硬く、凹凸が少ないので触り心地が滑らかです。
- \*熱の伝達経路となる細胞壁が多いので、触れた時に冷たく感じられます。  
(木材利用システム研究会 木力検定委員会 木力検定 木を学ぶ 100問より抜粋引用)



## **温帯や寒冷地の森林 火災による喪失増加**

### **温暖化進む悪循環**

- \*森林喪失の主要な原因が熱帯雨林の違法伐採から、温暖化に伴う寒冷地や温帯での森林火災に変わりつつあります。
- \*森林が減れば二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の吸収が減り、温暖化が加速する悪循環に。
- \*森林はCO<sub>2</sub>を吸収する貯蔵庫。
- \*森林が燃えるとCO<sub>2</sub>が大気に放出されます。
- \*CO<sub>2</sub>が増加した主な原因は、熱帯以外の地域。
- \*特に影響が大きいのがカナダやアラスカなどの寒帯の森林。
- \*CO<sub>2</sub>の排出は20年前の3倍に。
- \*2023年には気温の上昇と乾燥によって、アラスカとカナダで前年の約6倍の森林火災。
- \*アラスカやカナダには北半球の陸地面積の約4分の1を占める「永久凍土」があります。
- \*寒冷地では世界平均気温よりも温暖化が指針でいるため、火災のリスクが高まります。
- \*森林を失えば気温の上昇や気象災害にも直結します。  
(2024年12月3日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



## 国産針葉樹合板、2%下落 東京地区 12月 住宅不振で一段と

### コスト転嫁水準に

- \*国産針葉樹合板の東京地区のメーカー出荷価格は、12月上旬時点で厚さ12mm品の価格が11月比で2%下がりました。値下がりは10月上旬以来。
- \*12月の下落により、コスト転嫁前の価格水準に戻りました。
- \*木造住宅の着工戸数は10月に前年同月比で3%増えましたが、1～10月では前年同期を下回ります。
- \*不振の要因は住宅自体の値上がりとされます。
- \*主要な合板メーカーは価格を維持するため、生産を供給能力の8～9割に抑えてきました。
- \*コストはコロナ前より5～7割高くなっています。
- \*国産針葉樹合板の10月末の在庫量は前月比3%減。在庫の減少は3か月ぶり。  
(2024年12月5日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



## 木製家具 3年で輸出 8割増 木材の海外開拓に光明

- \*木製家具の輸出額が2023年までの3年間で8割増加。
- \*2023年の木製家具の輸出額は73億4200万円。
- \*2020年と比べると85%増えました。  
(2024年12月17日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

